国際縄文フォーラム火焔街道往来 2023

世界遺産と日本遺産をつなぐ
ストーンヘンジと縄文文化そして佐渡金山

Stonehenge and Jomon

世界文化遺産ストーンヘンジ　画像提供／イングリッシュ・ヘリテージ

日本遺産「なんだ、コレは!」信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化

入場無料

申込方法　先着400席

新潟市役所コールセンター
☎025-243-4894
受付日時／1月24日(火)～2月21日(火)
8:00 ～ 21:00

2023年2月25日(土) 10:20-16:00
受付開始 10:00

新潟市民プラザホール
（新潟市中央区西堀通 6 番町 866 番地 NEXT21 ビル 6 階）

＊ 無料駐車場はございません。公共交通機関、または周辺の有料駐車場をご利用ください。

主催／信濃川火焔街道連携協議会 https://www.kaen-heritage.com/
（新潟市・三条市・長岡市・魚沼市・十日町市・津南町）

共催／ 新潟県立歴史博物館　NPO ジョーモネスクジャパン
後援／ 新潟県　新潟県考古学会

新型コロナウイルス感染症予防のためのお願い
- マスクの着用をお願いします。
- 入場口での手指消毒と検温にご協力ください。
- 体調のすぐれない方は入場をご遠慮ください。
- 感染状況拡大の場合、入場者数を減員あるいは催し自体を中止することがあります。

日本遺産 JAPAN HERITAGE　信濃川火焔街道　新潟県立歴史博物館 The Niigata Prefectural Museum of History　SAINSBURY INSTITUTE for the Study of Japanese Arts and Cultures セインズベリー日本藝術研究所　UEA University of East Anglia　Jomonesque Japan　The Great Britain SASAKAWA FOUNDATION グレイトブリテン・ササカワ財団　佐渡を世界遺産に

Stonehenge and Jomon

ストーンヘンジと縄文文化そして佐渡金山

国際縄文フォーラム火焔街道往来2023

International Jomon Forum Kaen-Kaido-Ohrai

世界遺産と日本遺産をつなぐ

World heritage and Japanese heritage

2月25日（土）新潟市民プラザホール

信濃川火焔街道連携協議会では、海外の研究者を交えた国際フォーラム「火焔街道往来」を開催し、火焔型土器や縄文文化の発信をはかってきました。平成14年（2002）発足の協議会20周年を記念し、国内外の研究者を招いて、世界遺産ストーンヘンジと日本遺産の構成文化財である火焔型土器、世界遺産になった縄文遺跡群、そして世界遺産を目指す佐渡金山を取り上げた講演、報告、討論（パネルディスカッション）の場を設けます。

受付開始　10:00
開会挨拶　10:20　信濃川火焔街道連携協議会 会長　中原 八一（新潟市長）
趣旨説明　10:25　小熊 博史（長岡市立科学博物館 館長）

講演１　10:30〜11:20
世界遺産 ストーンヘンジ
ヘザー・セビア 博士（イングリッシュ・ヘリテージ ストーンヘンジ 管理官）

講演２　11:20〜12:10
英国の文化財
マーティン・オールフリー 博士（イングリッシュ・ヘリテージ 西地区文化財 管理官）
＊通訳・解説
サイモン・ケイナー 博士（セインズベリー日本藝術研究所 所長）

報告１　13:10〜13:40
世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群
長沼 孝 氏（北海道埋蔵文化財センター 理事長）

報告２　13:40〜14:00
日本遺産「なんだ、コレは!」信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化
石原 正敏（十日町市博物館 館長）

報告３　14:00〜14:20
佐渡金山世界遺産登録へ向けて
澤田 敦 博士（新潟県世界遺産登録推進室 室長）

討論　14:30〜15:30
パネルディスカッション一世界遺産と日本遺産をつなぐ
＊コーディネーター　宮尾 亨（新潟県立歴史博物館 研究員）

総括　15:30〜15:55
縄文外交を担う火焔型土器
小林 達雄 博士（國學院大學 名誉教授・信濃川火焔街道連協議会 顧問）

閉会挨拶　15:55　信濃川火焔街道連携協議会 副会長　滝沢 亮（三条市長）
閉会　16:00

Dr Heather Sebire

Dr Martin Allfrey

Dr Simon Kaner

Takashi Naganuma

Masatoshi Ishihara

Dr Atsushi Sawada

Dr Tatsuo Kobayashi

日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化

約 8,000 年前、日本海に暖流が流れ込むようになって以降、信濃川流域は世界有数の豪雪地となった。多雪に由来する豊富な水は、落葉広葉樹林を拡大させ、多種多様な動植物を育んだ。そうした環境と人との対話が、縄文時代にはじまる雪国の文化を育んだ。約 5,000 年前、日本列島各地方に個性的な縄文土器のデザインが林立した。現代人を虜にする奇抜な造形の火焔型土器は、雪国の文化を象徴する縄文土器である。火焔型土器は信濃川上流から河口まで途切れなく大量に発掘されている。信濃川流域約 130 ㎞にわたり、他に類をみない規格性の高い火焔型土器のデザインが共有され、雪国の一体感を示している。「信濃川火焔街道」「かえんどきのくに」を名乗る所以である。その一方で、いま実際に信濃川流域を上流から下流まで往来すれば、同じ雪国にあっても、各地で地形的特性や自然景観、都市化の度合い、冬の積雪量などの違いを肌で感じられる。また、地産地消されている季節感豊かな食を筆頭に、縄文時代以来の伝統を継ぎ、サステナビリティを感じさせる雪国の多彩な産物をそれぞれの場所で享受できる。こうした雪国の文化は、春夏秋冬、信濃川流域を訪問することなく体感できない。

JAPAN HERITAGE 日本遺産

新潟市・三条市・長岡市・魚沼市・十日町市・津南町

信濃川火焔街道連携協議会 https://www.kaen-heritage.com/

【事務局】新潟市文化スポーツ部歴史文化課
（新潟市中央区古町通７番町 1010 番地 古町ルフル５階）
☎ 025-226-2580